『 中秋の名月 』（十五夜）

今年は９月 13 日が、「中秋（仲秋:8 月の異称）の名月」（十五夜：旧暦 8 月 15 日）になります。美しい月を見たいものです。お月見には、お供え物をします。何をお供えしますか。そうです。月見団子です。地域によっては、お饅頭や里芋などをお供えするところもあるようです。作物の収穫に感謝をするお祭りから、収穫物をお月様に供えるようになったそうです。

ところで、昔から月にはウサギがいて、お餅をついていると言われています。これは、月ウサギの伝説によるものです。世界中が同じように、ウサギが餅をついていると見ているのでしょうか。実は世界各地、地域の神話や伝説によって月の模様もいろいろな見方があります。例えば、北ヨーロッパでは「本を読むおばあさん」、南ヨーロッパでh「大きなはさみのカニ」、東ヨーロッパでは「女性の横顔」に見えるようです。また、アラビアでは「吠えているライオン」、ドイツでは「薪（まき）を担ぐ男」、カナダでは「バケツを運ぶ少女」に見えているようです。

国や地域によって、月の見方は様々です。今年、「中秋の名月」（十五夜）が見えるといいですね。（ちなみに満月は 14 日）

お月見の風習は、地域によって違いはありますが、お月見にはお供えをするのが決まりです。

「ススキ」‥ ススキは秋の七草の一つ。白い尾花が稲穂に似ている、魔除けになるという理由で供えるようになりました。

「月見団子」‥ 丸い団子を月に見立て、感謝の気持ちを表わすそうです。団子の数は十五夜なら 15 個。ピラミッドのように積んで供えます。これは一番上の団子が霊界との懸け橋になると考えられていたからです。

「農作物」‥ 里芋、栗、など収穫されたばかりの農作物を供え、豊作に感謝していたようです。中でも里芋を供えるのは一般的で、「中秋の名月」は「芋名月」の異名を持ちます。

『風習』‥ 独特の風習も各地に伝わっています。最も多いのが「お月見泥棒」です。これは「月見のときだけはお供え物などを勝手に取ってもよい」というもので、例えば、長崎県の一部では「まんだかな」と言い、子どもがお供えを自由に取っていきます。また秋田県仙北郡では「片足御免」と言い、他人の家に片足を踏み込んでお供えを取るくらいは許されるそうです。どちらも「お月さまがお供えを食べた」ととらえ、人々は喜ぶそうです。

❤ Happy Birthday　９／12‥小宮 姫華さん